

人権センター 図書だより



Vol.31 令和5年5月15日発行

発行：四日市市人権センター

TEL.354-8609 FAX.354-8611

jinkencenter@city.yokkaichi.mie.jp

新年度がはじまり、新型コロナの影響が緩和される中、数年ぶりに賑やかなGW（ゴールデンウィーク）を迎えました。今回は3月後半～4月の新刊のご案内です。人権センターでは人権に関する図書を取り揃えていて、1回に5冊まで、2週間借りることができます。直接人権センターへお越しいただくか、お電話でお気軽にお問い合わせください。

また、本市では人権について様々な分野をいろいろな視点から学ぶことが出来る「よっかいち人権大学あすてっぷ」を開講しています。人権について、はじめて学ぶ方や改めて学び直す方にも対応出来る内容であり、関連図書やDVDも取り揃えています。ぜひご利用ください。

↓ 原作本の紹介 ↓

『ぼくの命は言葉とともにある』

9歳で失明、18歳で聴力も失ったぼくが東大教授となり、考えてきたこと
(F-234 福島 智 著 致知出版社)

3歳で右目、9歳で左目を失明。14歳で右耳、18歳で左耳の聴力を失う。こんなふうな、徐々に見えなくなり、少しずつ聞こえなくなっていく恐怖と不安はどれほどのものなのか、想像もできない。著者は当時のことをこう綴っている。「私はいきなり自分が地球上から引きはがされ、この空間に投げ込まれたように感じた。」と。

苦悩の末に著者が見出した生きる意味、幸福の形は読む者にもまた深い思索をもたらしてくれる。人間と人間が本当に繋がり合うとはどういうことか、仲間との信頼関係を築くためには何が大事かといったことが説得力を持って迫ってくる。ぜひ読んでいただきたい一冊です。

よっかいち人権大学

あすてっぷ 2023

主催 四日市市人権センター

開講式
記念映画

令和5年6月10日(土)
13:30~15:45

『桜色の風が咲く』

視力と聴力を次々と失いながらも、大学へ進学し、現在、東京大学の教授を務める福島智さんをご存じですか?そんな智さんと母・令子さんの実話にもとづく物語。ひとつひとつの困難を乗り越えながら人生の可能性を広げていく二人の勇気は、私たちの心を生きる喜びで満たすことでしょう。

新着図書より 一部紹介

テーマ「他人は自身と違う見方で物事を考える」

『学校に行かない君が教えてくれたこと』

親子で不登校の鎧を脱ぐまで

(I-4 159 今じんこ：作・絵 オーバーラップ)

私が七転八倒したこの経験は私の視野を大きく広げて人生を豊かにしてくれました。学校へ行かないことで、苦しい思いをする社会を続けてはいけません。私は自分の人生を自分らしく生きる楽しさ、自分の未熟さ、人を頼る大切さを知りました。(作者-あとがき)

子どもの不登校で悩んでいる方やそうでない方も、共感できる部分があり、親としての在り方、子ども自身が思うところ、色々あると思いますが、学校に行かない子どもの親の多くは、人と比べることが無意味であり、違いを尊重することが大切であると気づき知ることが出来る作品です。

四コマ漫画のように読みやすいところもいいですね。

『発達障害の人が見ている世界』

(F-237 岩瀬利郎：著 アスコム)

あなたの周りにいる、ちょっとだけ“付き合うのが大変”な人たちは、もしかしたら世界が違って見えているのかもしれない。(本文引用)

発達障害の人は決して能力が低いわけでも、人間性に問題があるわけでもありません。むしろ、その特性を上手に引き出せば、高い能力を発揮する可能性を秘めています。

発達障害の人の見えている世界を私たちが理解することで「共に生きるのが少し楽になる」と思います。

内容も極力難しい言葉は使わないようにしており、「なぜあの人は、あんなことを言ったり、したりしてしまうのか」という理由が、わかりやすく説明されています。

非常に読みやすく、考え方のポイントが押さえられています。



入荷月	書名	著者等	出版社等	分類番号
3	発達障害の人が見ている世界	岩瀬利郎	アスコム	F-237
3	「人それぞれ」がさみしい 「やさしく・冷たい」人間関係を考える	石田光規	筑摩書房	F-238
3	人薬(ひとぐすり) 精神科医と映画監督の対話	山本昌知/想田和弘	藤原書店	F-239
3	学校-家庭-地域をつなぐ 子ども家庭支援アセスメントガイドブック	(編)公益社団法人 日本社会福祉士会	中央法規出版	I-1 84
4	日本に住んでる世界のひと	金井真紀	大和書房	E-15
4	銀河鉄道の父	門井慶喜	講談社	J-1 143
4	学校に行かない君が教えてくれたこと 親子で不登校の鎧を脱ぐまで ★	今じんこ	オーバーラップ	I-4 159
4	冒険の書 AI時代のアンラーニング	孫泰蔵	日経BP	I-3 163
4	10代から知っておきたい女性を閉じこめる 「ずるい言葉」	森山至貴	WAVE出版	G-129



その他オススメ紹介



作家 宮沢賢治の父を知っていますか? 『銀河鉄道の父』

(J-1 143 門井慶喜:著 講談社文庫)

数々の名作を残している作家 宮沢賢治。その父 政次郎の、息子に対する無条件の親子愛を描いた物語です。

岩手県花巻で裕福な質屋を営む政次郎に、明治 29 年長男賢治が授かります。家父長制の時代、政次郎は厳格な父であろうとしますが、体の弱い賢治を常に気にかけて、入院時には付きっきりで看病します。質屋には不要と自分に許されなかった進学を認め、息子の特性や望みを理解しようと努めます。

しかし、賢治は社会性や生活能力に欠け、親に金を無心し、何者にもなれない自分を持て余すかのように苦しみます。幼いころから仲の良かった妹トシの病気を機に物語を書き始め、自分の道を見つけるも不器用な生き方のため若くして亡くなる賢治。政次郎は最期まで賢治の思いに寄り添います。

死後に国民作家となった宮沢賢治の生涯を、父の視点から描いた作品です。ぜひお読みください。

気持ちに寄り添い、理解する 『はじめて学ぶLGBT』 基礎からトレンドまで

(J-4 005 石田 仁:著者 ナツメ社)

LGBTに関連するカミングアウト、教育、健康、性分化疾患、法律、市民生活、ビジネスなどのトピックについて百を超える内容が網羅的ではあるがやさしく解説されており、しっかりと学ぶことが出来る内容です。『生まれながらの変更不可能な属性』に苦しむ方について、当事者ではない方に読んでいただき「気持ちや考えを理解」することが重要だと思います。また「よっかいち人権大学あすてっぷ」でもLGBTについての講座があります。理解が深まり「新しいLGBTの議論」を進めるきっかけになるような一冊です。